

## オンライン飲み会は未充足感が・・・

斉藤 征雄

思えば去年の二月は鎌倉へ遠出したり、参宮橋、神保町、二子玉川あたりを結構飲み歩いてきた。

しかし、三月から自粛が始まった。東京の新型コロナ感染者が急激に増えたのは四月に入ってからだが、三月の後半から徐々に増え始めて以来一年、すべての予定がキャンセルされ、飲み会はオンラインだけになった。

初めのうちは、仲間の顔を見られる上に、家飲みだから酒は安いので喜んでた。しかし、回を重ねるうちに次第に未充足感がつのるようになった。要するに大いに飲んで気持ちを通じ合う高揚感がないのである。

オンライン飲み会は言葉による交流に問題はないのに、何か物足りない感じが残るのは何故なのだろうか。やはり「同じ場にいらない」ということなのだろうと思う。

人と人がコミュニケーションするには、時間の共有と空間の共有の両方が必要なのだ。オンラインは、画像と音の共有によって同時性を有することはできるが、同じ空間を共有することはできない。同じ空気を吸い、触れ合わないまでもお互いの息遣いを感じながら交流することが、人間のコミュニケーションにとっては言葉以上に大切であるというところである。

言葉は人間にとって意思疎通のためにはならない手段ではあるが、絶対ではない。

母親と赤ん坊の意思疎通に、言葉による制約はないといわれる。母親は、赤ん坊の表情などからその意思を言葉を介せず感じ取れる。仏教でも言語道断というように、奥深い真理は言葉で説明することはできないという。【言語道断＝言語道を断つ】

人間の脳は、集団の規模が大きくなりコミュニケーションの需要が増すにしたがって容量が大きくなったらしい。そして脳が大きく進化したのは言葉を発明する以前だったという。このことは、言葉以外のコミュニケーション手段が重要な意味をもったということを示しているといわれる。

本当はこんなことはどうでもいいことで、思いはただ単に、早くみんなと集まって思い切り飲みたい、ということだけなのですがね。